

神奈川県箱根にある大涌谷をご紹介します。かつては大地獄と呼ばれ、今からおおよそ250年前の明治6年より大涌谷と改称されたとのことです。約3000年前の箱根火山大爆発によってできた今もなお火山活動盛んな噴煙立ち込む地獄谷です。箱根に行かれるならば、おそらく大半の方が一度は立ち寄るのではと思います。

箱根といえば日本屈指の温泉地。ゆっくり温泉に浸かりながら冬なら白雪をまとった富士山を眺めるのもいいですし、大涌谷では名物の黒たまごを食べてロープウェイに乗り、壮大な景色と富士山を眺めるのも大変いいと思います。お勧めの時期は、どちらかといえば冬季よりも春から夏にかけた時期や秋などの自然が色づく季節です。ただ特に大涌谷ではガスが発生しています。気管支疾患や心臓など持病をお持ちの方は、立ち入り制限もあるようですので、行かれる際はくれぐれもご注意ください。また今はコロナ対策も取られていますが、こちらもご注意ください。

ちなみに今回は観光ではありませんでしたので、今度はゆっくり観光して温泉に浸かり富士山を眺めたいなと思っています。そんな日が来ることを、一日でも早く戻ることを切に願っています。

東日本物流センター 東日本営業本部(センター長:木下 敦裕)

皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は、リニューアルをした名古屋テレビ塔を紹介いたします。

名古屋中心部の繁華街、久屋大通にあるテレビ塔ですが、1954年の完成当時は東洋一の高さを誇り、2011年のアナログ放送終了まで電波塔としての役割を担ってきました。

電波塔としての役目を終え、各テレビ局からのアンテナ設置料などの収入もなくなり、存廃問題があがっていましたが、最終的に出資者である名古屋市が存続を明言し、2020年9月にリニューアルオープンしています。

リニューアルに伴い、内部に『ザ タワーホテル名古屋』というホテルが作られ、ホテル内には13室の客室と、レストラン、カフェ等が入っています。(テレビ塔の鉄骨部分がむき出しになっている客室もあるようです)

これまでは電波塔や展望台として、名古屋のランドマークとして親しまれてきたテレビ塔が、中身が変わるにしても外観や展望台などが、そのまま残ったのは市民としては良かったと思います。

名古屋営業所(所長:高橋 鉄夫)

KOYORAD

世界の拠点から
-From the base in the world-



にっぽんの温泉100選では毎年上位にランクインしています登別温泉へ10月下旬に行ってまいりましたので紹介させていただきます。温泉街としてはそんなに大きくはありませんが、入り口付近に登別温泉源泉エリアの『地獄谷』と言う火口跡があります。小さな火口や噴気孔があり、ガスと高温の温泉が湧き出している名所です。遊歩道で散策出来るようになっていますが、危険なので柵で覆われています。近寄れないようになっていますが、硫黄の匂いが強烈でした。

そこから更に遊歩道を30分程歩くと、『大湯沼』と呼ばれている温泉湯沼に到着します。こちらは名前通り温泉湯の沼。周囲1kmの湯沼で表面温度は40度以上の為、こちらも柵で覆われ沼までは入れません。深さは22m程あり、深いところでは130度の高温で安全の為だそうです。こちらの沼から流れ出した温泉が大湯沼川に流れ込んでいますので天然の足湯を楽しむことができます。私も試しに入りましたが、足湯と森林浴が同時に味わえました。

日本には温泉地がたくさんありますが、北海道には何と全国一番で245ヶ所の温泉があります。個人的にはBEST3に入る登別温泉がお勧めです。



札幌営業所(所長:利川 光浩)

まもなく2020年も終わり。コロナの影響で観光が中々出来なかったり、イベントが中止だったりと良くなかったですね。

そんな中、大阪で『バンクシー展天才か反逆者か』が開催されていました。バンクシーは覆面アーティストで色々な街の壁などに絵を描いており、現代の風刺画家としてブラックユーモアたっぷりの表現に元々興味を持っていました。そんな事もあり、ワクワクしながら見に行きました。

会場前には写真スポットになるパネルが用意され、写真を撮る方も多い。入場チケットは時間制で、入場時間が限られますが時間制限はありません。コロナ対策として検温してから入場。うれしい事に中の写真撮影はOK。入場し、すぐに10分ほどのムービーを見る。今迄、ストリートに描いてきた絵を紹介するのですがCGを使い、壁の絵を動かすなど中々面白い。

次にバンクシーのネズミが駆け回るトイレが再現された部屋の一角が現れ、その隣にはバンクシーのアトリエが再現されたスペース。黒のスエットに身を包んだバンクシーのマネキンが妙にリアルです。その後、絵の展示スペースですが、想像以上に絵の点数が多かった。本当はスマホのアプリを使い、音声ガイダンスを聴けるのですがイヤホンを忘れ、聞けず残念。でも、ガイダンスを聞かなくてもメッセージが伝わってくる絵が多く、政治、戦争、大企業の矛盾をブラックユーモアたっぷりに表現。

最後に『天才』か『反逆者』かを投票出来るのですが、このブラックユーモアを理解できるか行き過ぎと捉えるかによって票が分かれると思いました。私は『天才』に1票入れてきましたよ。

大阪営業所(所長:藤谷 弘行)

日増しに寒さが身に染みるようになってきました。今からの季節はコロナだけでなく、インフルエンザも流行り始めるので、体調管理には本当に気をつけますね。より一層の感染予防をされてお過ごしください。

さて、先日何げなくテレビを見ていたところ、なにやら面白いイベントが北九州市の黒崎駅で開催されているとのことで休日に行ってきました。そのイベントというのが『あんぱんパーク』。北九州市内外から約20店舗が出店と、あんぱん好きの私にとってはこれ以上ない絶好のイベントです。現地ではソーシャルディスタンスを保っていますが、人気のお店では結構な人の列。特に下調べもしていなかったため、とりあえず大量のパンが積み重ねられているお店を見定めて並んだり、パンとは関係のない黒毛和牛ステーキ串のお店に並んだり...と美味しそうなのをすべて買い込みました(笑)。

ちなみにここ黒崎駅といえば62年間、営業を続けてきた黒崎井筒屋が閉店しました。地域に根付いたデパートであり、またこうしたデパートと呼ばれる場所がなくなっていくのはとても寂しいものです。あんぱんパークに限らず、今後は足を運ぶ機会を増やして、少しでも何かに繋がれば...と思った一日でした。

福岡営業所・沖縄配送センター(所長:江頭 慎司)

私の一番下の子供が大学生1年生です。コロナのせいで大学に行けず、半年以上家からオンライン授業を受けています。家にいる間、家で食事していますが退屈すると食べ物をオンライン注文しています。食べ物だけでなく、色々な飲み物もオンラインで頼みます。最近スターバックスのコーヒー+ミルク1杯1ℓ約90,000ルピアを週何回も注文しています。家で勉強しながらコーヒー+ミルクを飲むと、刺激になって眠くなりにくいそうです。ですがコーヒー+ミルクで90,000ルピア(650円)なんて高いなあと思っていました。

暇な時、Youtubeでスターバックスのコーヒー+ミルクの作り方をみると、そんなに難しくなかったの、材料(コーヒー、ミルク、特別な砂糖)を買い、それぞれの割合を調べて似たようなものを作ることができました。約25,000ルピア(180円)もいかない程度でできました。コーヒーの味、ミルクの味、甘さは自慢じゃないですが似たような味だと思います。約3週間この飲み物を作り、スターバックスで買う必要がなくなり、コストダウンです！

一番上の子にこの作り方を教えると、直ぐに自分で作ってみてまあまあ美味しかったそうです。

KJI(インドネシア)(工場長: S.Akhyar)

～このブームは本物～

カウンターにずらりと並ぶ日本全国各地の日本酒ボトル。私たちがよく行く日本食レストランや居酒屋でもこんな光景がおなじみになりました。10年前と比べ、中国での日本酒の消費量は量、種類とも格段に増えています。

中国元来の白酒や紹興酒に加えワインやウイスキーの人気の高まっている話題を以前に紹介しましたが、日本酒の人気も着実に高まっており、このブームは本物だと感じさせます。日本政府も日本のおいしい農産物や食品を海外へ積極的にアピールする中、中国人にも『お酒通』の人が増え、入手が難しい高級銘柄のお酒を見かけることも珍しくありません。山口県の『獺祭』は中国でも今やすっかり高級酒のレギュラーメンバーになっています。

北京では毎年大規模な日本酒コンテストが開催され、中国での人気No.1銘柄に注目が集まります。日本酒の輸入関税は40%で焼酎の10%と比べても割高です。日本よりはどうしても高価なものになってしまっていますがそれでも消費量は年々大幅増加を続け2019年の日本酒輸入量は5,800kℓで北京五輪が開かれた2008年と比べても約10倍に増えているそうです。

コロナ禍で日中間のスムーズな出入国はまだしばらく先のことになりそうですが、蘇州でも美味しい日本料理と日本酒が楽しめます。もう少しの辛抱ですわね。

KHE(中国・蘇州)(総経理: 山本 博史)

北半球が冬を迎え、各地域で新型コロナウイルス感染の拡大が続いています。日本やアメリカでは第3次感染が急増しているようです。アメリカでは11月に入ってから29日連続で10万人以上の感染者数が続いています。

そんな中、先日アメリカ大統領選挙が終わりました。皆様もご存知の通り、テレビや新聞などではバイデン氏が史上初めて8千万票を超える得票を獲得し、選挙人の得票数も300人を超えました。しかしながら未だ『勝利』していません。

それはトランプ大統領が敗北を認めず、法廷闘争などで徹底抗戦を

続ける構えで『敗北宣言』が出る見通しがたっていないからです。米大統領選で負けた候補の敗北宣言は120年以上の歴史があるそうで、前代未聞の出来事だそうです。どうなるのでしょうか？

1月にジョージア州で上院の決選投票が予定されています。ですので、それまでは何も起こらないというのがアメリカ国内のニュースです。

株式相場などは、最近の少し諦め気味のトランプ大統領の声明にて政権移行の不透明感が後退し、続伸しています。ホリデーシーズンを迎え少しずつ平常を取り戻しているような雰囲気もありますが、トランプ支持者の動向も気になります。

KCS(アメリカ)(COO: 板垣 仁志)

～パブリックスペースの利用～

サンテックにある私たちのオフィスは、貯水池(マリーナパラージ)近くの街の真ん中に建っています。貯水池の上には大きな橋があり、下には高速道路用のトンネルがあります。都市プランナーは、公共の利用と景観を調和させる方法をよく理解しています。

ベンジャミンシアーズと呼ばれる橋は約1.8kmに渡り、最も高い地点は29mです。こちらは1981年に建てられ、すでに39年経過しています。よく写真家がここで日の出や日没を待っている姿がみられます。橋を渡ると、野外活動に利用できる広いスペースがあります。このエリアは手入れが行き届きとても清潔で、朝や夕方に歩いても、ビールの缶やボトルがあったり、その他の『変わった』景色が見られたりすることはありません。このエリアはマリーナパラージと国立競技場が徒歩圏内にあり、接続が良いため、一般の方にとって非常に便利です。

維持するよりも製作する方が簡単です、これには私も同意します。橋を架けることはできますが、適切なメンテナンスと管理がなければ、成功しません。

今年ももうすぐ終わりです。少し休憩し、今年を振り返り来年の計画をしてください。くれぐれもお健康にはお気をつけ下さい。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

～シンタクラースのお祝い～

12月5日、オランダの人々は、白い髭と髪、赤い司教冠とマントをつけ、白馬に従事である『ズワルトピート』を従え、シンタクラースの生誕祭を行います。シンタクラース祭はオランダの恒例行事で、存在を信じている子供たちの楽しいお祝いです。

近年、シンタクラース祭は、社会問題になりつつあります。オランダ語で『ズワルト』は黒を意味し、人種差別として議論されています。ズワルトピート議論はSNSでも注目され、様々な組織が、ピートの差別的な側面を指摘しています。人権とSNSを専門とするオランダ人権研究所も、人種差別であると認めています。多くの人々にとって、ピートは植民地時代の典型で、過去の奴隷制度を想起させます。その結果、反ズワルトピート団体(KOZP)が設立されました。KOZPの1つの目標は、人種差別の象徴であるピートの黒塗り変更。現代のピートは黒塗りせず、ニックネームを『煙突のピート』とし、他の色を使用することで、誰も傷つけたり怒らせたりしないピートです。しかし、依然としてオランダの36%の方は、ピートはシンタクラースの伝統の一部であり、尊重されなければならないと信じています。

毎年、様々な大都市で抗議活動が発生しています。KOZPと支持者間で不満と挑発によって感情的になり、衝突することも。感情や感受性を無視してはいけませんが、自分の見解を得るために暴力を振るってはいけません。

成長しピートに対して、別の意見を持つまでは、子供たちから見てシンタクラース祭は、無害で偏見のない楽しい行事です。将来的に、子供と大人、伝統であるシンタクラースとピートが調和することを願っています。

KIO(オランダ)(Marvin de Laat)